

電気通信大学こども食堂2025 実施報告

河村朋紀¹⁾ 保科舞¹⁾ 木村知那²⁾ 白澤航成³⁾ 大河原一憲⁴⁾

1)電気通信大学 大学院 情報理工学研究科 情報学専攻 大河原研究室

2)電気通信大学 I類 コンピュータサイエンスプログラム アメリカンフットボール部 主務

3)電気通信大学 III類 化学生命工学プログラム アメリカンフットボール部 主将

4)電気通信大学 大学院 情報理工学研究科 情報学専攻 教授 アメリカンフットボール部 監督・顧問

1. はじめに

電気通信大学こども食堂について

「電気通信大学こども食堂」は、電気通信大学アメリカンフットボール部と大河原研究室からなるプロジェクトチームで実施してきました。2024年度はUECヘルシーキャンパスプロジェクトの一環として、電気通信大学社会連携センター、電気通信大学生協、NPO法人ソーシャルイノベーション協奏バンクのご協力のもと取り組むことができました。

前回の2023年電気通信大学こども食堂は、新型コロナウイルスの緊急事態宣言が終了してから初めての実施となりました。久しぶりの開催で、レクリエーション企画など苦労する点多々ありましたが、当日は大学生がこども達と一緒に運動して遊んだり、食事をとったりすることで、こども達だけでなく大学生にとっても貴重な体験となりました。

そして、6度目の開催となった今年の「電気通信大学こども食堂2025」では従来のこどもと大学生と一緒に遊び、食事をとることに加え、科学イベントを追加しました。前回の開催から約1年ぶりの開催となる今回も、80名近くのこどもたちとその保護者の方々にご参加いただき、一緒に身体を動かして、同じご飯を食べて、共に楽しい時間を過ごすことができました。

「電気通信大学こども食堂2025」は、大学生と運

動や食事を共にして、こどもたちに楽しい思い出を残すこと、また、電気通信大学について興味をもってもらうことを目的としました。私たちと過ごした思い出が、こどもたちのなりたい姿や進路などといった自分の将来のことを考えるきっかけになればという願いを込めて、大学生51名が本プロジェクトの運営に携わりました。

また、大学生にとっても、本活動を通じてこどもたちや地域の方々に関心を持っていただき、応援していただけることがとても励みになっています。本イベントを通じて充実感や達成感を得られ、今後の学生生活への意欲や成長にもつながる貴重な経験となりました。

2. 開催にあたって

資金確保

今年度は子ども食堂の資金集めとして2024年10月にGiving-Campaignに参加しました。

Giving-Campaignとは、大学団体の活動に対してWeb上で投票を募り、その投票数に応じて企業などから活動資金が提供される取り組みです。

私たちは駅前や5か所の子ども食堂でチラシを配布し、309票のご支援をいただきました。その結果「アカデミックスタッフ賞」「Sales maker賞」を受賞し、「電気通信大学こども食堂2025」の運営資金を確保することができました。

参加者の募集

本イベントは、小学生を対象に親子合わせて100名を募集しました。参加者を募る際には、調布市富士見町の「こども食堂かくしゅうじ」、「調布市立北ノ台小学校」にて本プロジェクトのチラシの配布を行わせていただきました。

3. 当日の様子

【開催日時】 2025年1月25日（土）

【開催場所】 電気通信大学

【タイムスケジュール】

- 14:00 受付開始
- 14:30 開会式
- 14:40 体育館にてレクリエーション
- 15:40 大学内ウォークラリー
- 16:20 スライム作り
- 17:30 生協食堂にて食事提供
- 18:20 閉会式

イベント概要

イベント当日は約80名の児童および保護者が来場し、大学生や関係者を合わせて約130名が参加しました。プログラムは4部に大きく分かれており、初めは体育館にて身体を動かすレクリエーションを行いました。次に大学内を歩いて回るウォークラリーを実施し、生協食堂へ移動しました。続いて科学イベントとしてスライム作り体験を実施し、最後に大学生協食堂にて参加者全員で食事をとりました。

受付の開始

電気通信大学の第一体育館入口にて受付を行い、2階のアリーナへと案内しました。大きな大学生を目前に少し緊張しながらもわくわくした様子で階段を駆け上がるこどもたちの姿に、イベントの始まりを実感しました。

受付を済ませたこどもたちは、アリーナにてアメ

フト部員とキャッチボールや的当てをしたり、お絵かきペーパーにお絵かきをしたりしてイベントの開始を待ちました。受付時には緊張していたように見えた子どもも、大学生や他のこどもたちと一緒に身体を動かすうちにすぐに打ち解け、次第に笑顔になりました。



開始前から色々な遊びで楽しんでいます

開会式とアメフト紹介

開会の挨拶は、大河原先生が務めました。先生の開会の挨拶に学生、こどもたちも大きな拍手で応えます。「電気通信大学こども食堂2025」のスタートです。

アメフト紹介では、実際に試合で使用するヘルメットやショルダーパッド（防具）を着用して競技を紹介しました。普段目にする事のないアメフトの道具や、がっしりとした姿の選手に、こどもたちは目を輝かせながら見入っていました。



アメフト紹介

体育館でのレクリエーション

アメフト紹介に続いて、レクリエーションが始まりました。アメフトの簡易版であるフラッグフットボールという競技の要素を取り入れた、3種類のゲームを行います。大学生とこどもたちは6つのチー

ムに分かれて、チームごとに準備体操をしました。



準備体操

1つ目のゲームは「ボール渡しリレー」です。フットボールで使われる楕円型のボールを使う遊びです。特殊な形のボールをしっかりと抱え、向かい合う仲間のもとまで走って、手渡しでボールを渡します。練習をした後、制限時間内に何人にボールを渡せるかをチームごとに競い合いました。



ボール渡しリレー

2つ目のゲームは1対1のランゲームです。両腰につけたフラッグを取られずに、ボールを持って反対側のラインまで逃げ切れば勝ちというルールです。ゲームが始まると、こどもたちはフラッグを取られないよう、斜めに走ったり、左右に動いてフェイントをしたりなどさまざまな工夫を見せてくれました。



1対1ランゲーム

最後には「的入れゲーム」を行い、チームごとにボールを的に入れた数を競い合いました。こども達がラインから穴の開いたネットめがけてボールを投げます。小さな的を狙ってボールを投げるのは難しく、苦戦する場面もありましたが、ボールが入るとハイタッチをしたり、飛んだりしてチーム全員で大いに盛り上がっていました。



的入れゲーム



ハイタッチして喜びを分かち合います

大学内のウォークラリー

レクリエーションのあとは、大学構内のウォークラリーに出発です。大学の東地区に用意した2つのチェックポイントを探して構内を散策していきます。普段見ることのないアンテナや噴水に子供たちは興味津々でした。



アンテナ前で記念撮影



大学生に抱っこされてすっかり仲良しです

スライム作り

ウォークラリーの後は生協食堂に移動し、スライム作りが始まりました。はじめにスライムが固まる仕組みについて学生が漫画やイラストを使いながら説明しました。難しい部分もありましたが、こども達は「へー」「知らなかった！」と興味を示し、その後のスライムに関するクイズにも元気よく答えて

くれました。

スライム作りが始まると、こども達は材料を次々に混ぜながら楽しそうに取り組んでいました。お湯など危ない材料に関しては大学生がサポートし、安全にスライムを作っていきます。スライムが固まる仕組みを学んだ子供たちは自身でホウ砂の量を調整し、スライムの硬さを変えたり、ビーズなどを入れたりしてアレンジを楽しんでいました。いよいよ完成したスライムを手で揉んだり伸ばしたりする子どもたちの姿はとても楽しそうで、笑顔が溢れていました。



スライムが固まる仕組みについて解説中



大学生がサポートしながらスライムを作っていきます



完成したスライムで一緒に遊びます

大学生協食堂での食事会

スライム作りのあとは、お待ちかねの食事会です。電気通信大学生協の協力のもと、160食のハンバーグカレーライスとサラダが提供されました。レクリエーションやスライム作りで汚れた手をしっかり洗い、順番にご飯を受け取っていきます。大学生も子どもたちと一緒に席に着き、和やかな雰囲気の中で食事の準備が進められました。準備が早く済んだ子どもたちは、大学生とお話しながら「いただきます」の合図を待ちます。



順番にカレーライスを受け取っていきます

全員の食事準備が終わると、アメフト部学生の合図に合わせて、食堂に「いただきます」の声が大きく響き渡ります。たくさん遊んでお腹をすかせた子どもたちは、勢いよく食べ始め、両頬いっぱいにカレーライスを頬張っていました。食べ終わった子どもたちはすぐにおかわりに向かい、満足するまでカレーライスを堪能していました。



会話しながら食事を楽しまます

食事会の最後には、NPO 法人ソーシャルイノベーション協奏バンクのご支援により、お土産の「宇宙のパン」と「宇宙おにぎり」が配られました。宇宙のパンは、スペースシャトルでも食べられていた宇宙食です。宇宙飛行士のために開発された特別なパンやおにぎりを手にした子どもたちは「どんな味がするのかな？」と興味津々の様子でした。

4. まとめ

最後まで元気いっぱい手を振りながら会場を後にする子どもたちを見送り、「電気通信大学こども食堂 2025」は無事終了しました。

たくさんの子ども達が終了後のアンケートで「楽しかった」「また来たい」「お兄さんお姉さんと遊べて楽しかった」で回答してくれ、イベントを楽しんでくれた様子が伝わってきました。保護者の方からも「子ども達がたのしそうだった」「大学生が子ども達に優しく接してくれていた」というお声を多くいただきました。

また、今回から新たに追加された科学イベントでは、子どもたちから「また作りたい」といった嬉しい言葉が寄せられました。科学イベントの実施にあたっては、地域の科学教室でボランティアに参加し、子どもへの説明方法を学んだり、小学校の先生に資料を確認していただいたりと、さまざまな準備を行いました。初めての試みで苦労もありましたが、無事に実施でき、子どもたちに楽しんでもらえたことを大変嬉しく思います。

「電気通信大学こども食堂 2025」開催にあたり多くの課題や困難がありましたが、学内・学外問わずたくさんの方々にご支援やご協力をいただき、プロジェクトを成功させることができました。

今後も地域の皆さまに電気通信大学の学生を応援していただけるよう、また私たち自身も学生ならではの力で地域に貢献し、恩返しができるよう、何事にも全力で取り組んでまいります。

本イベントにお力添えいただいたすべての方々に、心より感謝申し上げます。

